

大正四年十一月

第六陸攻丸

(第二高屋丸)

要注責汽船ニ関ス件

一〇本

一〇

大正四年十二月廿日 警務署 警務課 警務長

高知第一八五〇號

大正四年十月廿七日

福岡縣知事谷口留五郎

外務大臣男爵石井菊次郎殿

申(通)報先

内務大臣外務大臣、海軍大臣、北海道廳長官

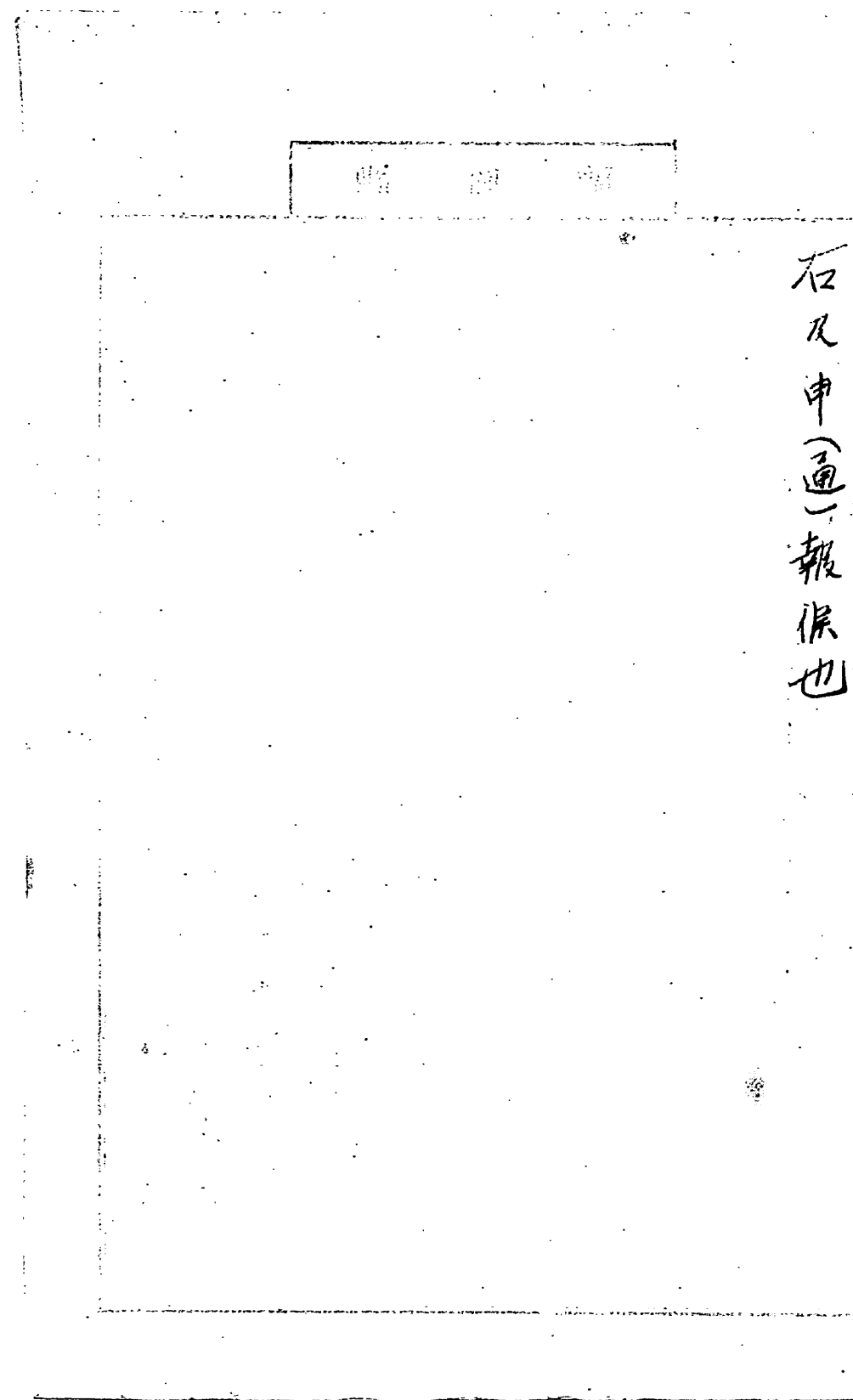
兵庫縣知事

日 記 第二部 接受
要注意汽船ニ関スル件

本月廿二日門司八港ノ北海道函館前田利一船所有汽船第二高運丸(六五四噸)ハ過般セントジャリエス岬ニ於テ

福岡縣

捕セシタリト云フ井呂丸ヲ買受ケタル在上海海洋社ニ於テ借入ル、ヤノ風聞アリニ依リ内債スルニ本船取扱人ハ井呂丸ノ積込荷物ヲ取扱ヒタル門司市内慶町三田佐々木田吉ナルコト判明シタルヲ以テ極力内債ヲ進メタルニ本船ハ神戸市境町丁目海軍組合松尾小三郎ニ於テ既ニ船主前田利一ヨリ借受ケ下、吳鈴水商會ヨリ在支那上海全支店ニ送付ス、又砂糖五噸、コリスニ等ヲ積載シ居タルカ本船取扱人カ井呂丸ノ貨物取扱人タル前記佐々木田吉ナルコト及近海航路ニ用ヰル承運船、漬其他鑑詰等ヲ船用食用品トシテ積込ミタルニ其其他船長ニ於テ上海到着後ノ航路知悉セサル等ノ事ヲ綜合スルニ各疑ス、又上乗アリシヲ以テ重敷警戒ヲ加ヘ注意中ナリシカ内司港ニ於テハ以上ノ外積載セシ貨物ヲ昨日午後一時門司解纜上海ニ直



石及申(通)報係也

船長、宛テ出帆シ候ノ事、能ハズ、此部、官致、奉、判、着
 又、等、ノ、目、下、注、意、中
 本、及、中、通、一、報、候、也

視10799號

秘

大正四年三月七日 接受

警務部

第三課

長岡 手記

高秘第八六五〇號

大正四年十一月廿七日

福岡縣知事 谷口 雷五郎

内務大臣 法学博士 木喜徳郎 殿

申(通) 報 先 内務大臣 海軍大臣 島根

兵庫縣知事 大阪府知事

要注意 汽船ニ関スル件

本月廿日 門司入港、島根縣隱岐國西郷中町隱岐汽船株式會社所汽船第廿六號(三二噸八)ハ從來内國航路ナリシヲ門司入港后税関ノ手挂テ外國航路ニ變更シタルノミナラス本船ハ神戸市海事

大正五年六月廿一日 記録第二部 接受

内務省

組合松尾小三郎ニ於テ借受ケ實ハ在上海海洋社ニ貸渡スヤノ凡説アリ而モ其ノ仲介者ハ目下問題トナリ居ル汽船井呂丸、借主タリト云フ門司市内濱町回漕業依々本國者ナル旨探知シタルニ依リ即時内務大臣ニ申報スルト共ニ一面本船ニ付テ極力内債スルニ本船ハ隱岐汽船株式會社重役タル大阪市土佐堀町三丁目福真商會店主眞野又右郎、所有汽船ニシテ過般元深川造船所支配人高橋賢造ナル者仲介者トナリ在上海海洋社代理人門司市回漕業青佐々木同吉ト交渉シ上月三十五百円ニテ本月ヨリ向テ月間賃借スル契約成立シタル振ナルカ本件仲介者タル高橋賢造ハ曾テ井呂丸事件ニ關係シタルヤノ聞ヘアリ尚海洋社代理人タル佐々木同吉ハ從來家計意思、

星野 製

如クナラシテ其ノ生活狀態ノ如キ困難ナリシニ最近ハ
遠カニ贅ヲ極ムルニ至リ其ノ動靜容疑スヘキ矣アリ
又本日午後四時船主眞野又太郎ヨリ船長ニ宛テ
出帆ヲ促スヘキ電報並ニ暗号電報等到着シタ
ル等事アリ目下注意中
右及申(通)報候也

大正四年七月七日 慶受

島根縣知事 折原巳一郎

大正四年十二月三日

島根縣知事 折原巳一郎



内務、外務、海軍、各大臣殿
兵庫、大坂、福岡、愛知、各府縣知事殿

(申通報先宛多通り)

外到汽船会社本邦ニ於テ汽船
傭入ニ関スル件

客月十六日警務、松岡、第四、五、八、號、
以テ警務局長ヨリ外國汽船会社本邦
大正五年六月廿一日記録第二部接受

ニ於テ汽船傭入ニ関スル件ニ付キ御照
會相成調査候知管下ニ於テハ該当ノ
事實ナキモ客月二十七日島根第一八六
五。號ノ一ヲ以テ福岡縣知事ヨリ通報
ニ係ル縣下穩岐國西郷中町穩岐汽船株
式会社所有汽船茅大隱岐丸ニ関シ目下
歸郷中ノ眞野又太郎ニ就キ内偵候處
左記ノ通りニ有之上海總領事ニ對シテハ
事實調査方本日照會ニ置キ候條其改
及申(通)報候也

記

一、茅大隱岐丸ハ從來北海道小樽区小田切忠治ニ
貸渡シ居リシ也(使用料金一月參千円)其ノ期

限満了レタル敷ニテ今因上海海洋社ニ於テ
使用セラル目的ノ下ニ神戸市在住杉尾
小三郎ト貸借契約ヲ為シタルハ事實ニシテ
汽船ハ既ニ客月三十日午前九時門司ヨリ
上海ニ向ケ出航シタル旨第六隠岐丸ヨリ
又太郎ニ電報ニ来リタリ

二、海洋社ト貸借ニ関シ条件ノ重ナルモノハ
一、期間ハ今年十一月十五日ヨリ向フ六ヶ月間
トス

二、使用料ハ一ヶ月金参千百円ニシテ前拂トス
三、航路ハ上海以北
四、船ノ見積價格ハ十万円トス

(第六隠岐丸ノ保険ハ八万円トス居ル由)

三、本件貸借契約ハ海洋社カ前キニ汽船井
呂丸ヲ借入レタル際眞野又太郎モ多少ノ関係
レタル事アル趣ニテ其節知合トナリタル全
社眞愛知(貴)縣名古屋在住眞野杖吉
ナル者ヨリ又太郎ニ対シ汽船借入方ヲ申
越シタルモノカ動機トナリ元深川造船所支配
人高橋賢造ヲ仲介人トナシ前項ノ通り契
約スルニ至リタルモノ、如シ而シテ仲介人ニ対ス
ル分配金ハ貸借料金ノ百分ノ五ナリト之ヲ
四、客月廿七日眞野又太郎ヨリ船長ニ対シ出航ヲ
促スヘキ電報ヲ發シタルハ海洋社カ使用料参
千百円ヲ前納セサルカ為メ出航スルニ至ラズ空
シク汽船ヲ休航セシムル時ハ自然契約期間ニ

関係スルコトヲムラシク願フタルニ依ルモノ、如レ然ル
 ニ借主側ニアリテハ使用料全部ヲ前納セズ
 今圓壹千五百円ヲ納メ残額壹千六百円ハ茅
 六隱岐丸カ上海ニ着船ノ上直々ニ送金スベク
 申出タル趣ニテ又太郎ハ契約ニ違フモ休航日
 数延ヒ海洋社ノ損失ニ歸スルヲ氣ノ毒ニ思ヒ
 客月二十九日之ヲ受諾シ漸ク翌三十日朝出
 航スルニ至リタル趣ナリ暗号電報ノ要旨不明
 五、隱岐汽船会社側ニ於ケル茅六隱岐丸一ヶ
 月経費ハ約二千三百円ノ豫算ニシテ今圓
 ノ貸債ト対照シ差引クトキハ八百円ノ純益
 トナルヲ如キモ其以仲介人ノ分配金等ヲ引キ
 ルトキハ約六百円位ノ利益ニ止マリ法外ノ
 利益ニ非サルモノ、如シ

(3)